

飯塚市新産業創出ビジョン

2013～2017

「人と産業が集まり成長するまち」をめざして

概要版

福岡県飯塚市

2013年3月

飯塚市新産業創出ビジョン策定にあたって

飯塚市は、江戸時代には長崎街道随一の宿場町として繁栄し、明治以降は石炭のまちとして古くから物流と文化交流の中心地として発展してきました。国内の石炭産業が衰退してからは、新しい産業の創出に向けて工業団地の整備や企業誘致に努めると同時に、大学や研究機関の誘致を積極的に進めてきました。

その結果、近畿大学産業理工学部や九州工業大学情報工学部が設置されるなど、県内でも有数の学園都市が形成されました。平成以降は、産学連携のコーディネートを行う福岡県立飯塚研究開発センターや高度情報処理技術者の育成を行う株式会社福岡ソフトウェアセンターが設立され、研究開発と産業振興の拠点が集積するまちとして変貌を遂げています。

その後、九州工業大学の研究者や大学生を中心とした起業化の動きや、理工系大学、産業支援機関や研究施設等の集積の強みを背景に、2002（平成14）年1月に「e-ZUKAトライバレー構想」を発表、2003年2月には、アクション・プランである「飯塚市新産業創出ビジョン」を策定し、知的資産を核とした新産業創出のため、産学官連携の推進、起業家の育成、ベンチャー企業支援、研究開発型企業の誘致等の施策を展開してきました。

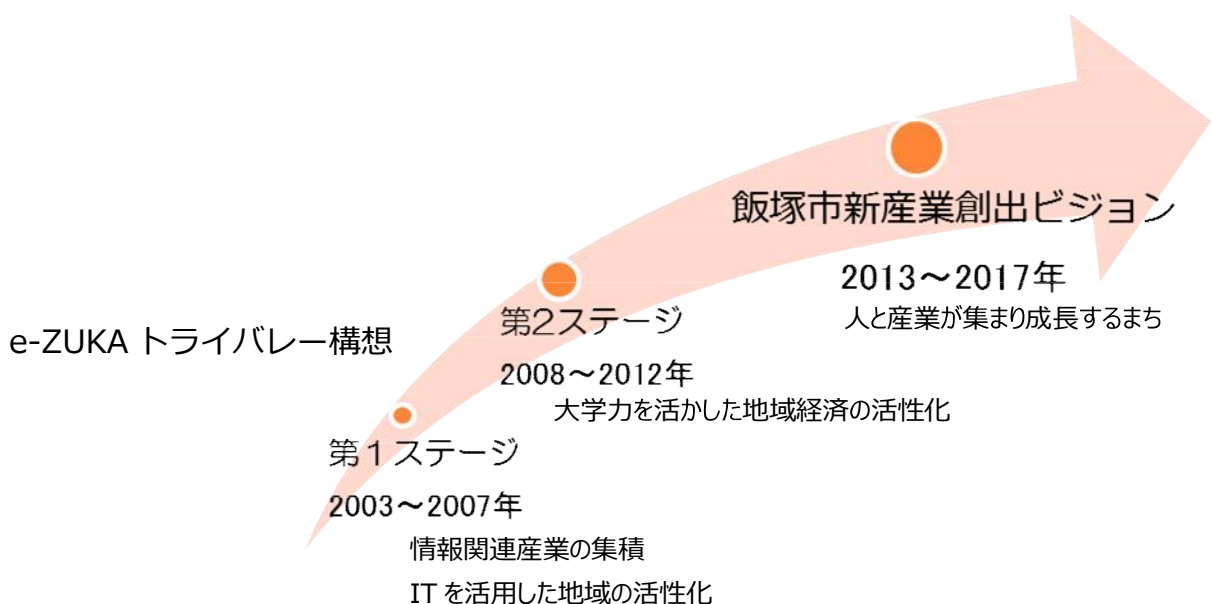
最初の5年間の第1ステージ（2003～07年度）では、飯塚市を中心とした地域において、大学等の人材並びに知的資産を活用した情報関連産業の集積を進めるとともに、ITを活用した地域の既存産業の活性化や地域のイメージアップをめざしました。

次の5年間の第2ステージ（2008～12年度）では、『大学力』を活かした地域経済の活性化をめざして、①日本一創業と成長がしやすいまち、②全国から注目され、情報・人材・ビジネスチャンスが集まる刺激的なまちを形成することをめざしてきました。

これらのステージの過程で、ITを活用した地域産業の活性化を掲げていましたが、時代の変遷の中でITは急速に進展し、産業分野を問わず、経済活動や人々の生活において、イノベーションを生み出す技術であると同時に、日常的なコミュニケーションツールとなっています。

今後は、この技術力の源泉となりうる、また、コミュニケーションツールとしてのITを活用し、更に産業力を高め、求心力をもった新産業の創出が大きな課題となっています。

こうした流れを踏まえ、新たなステージとなる「飯塚市新産業創出ビジョン2013～2017」では、これまでの地域資源をエンジンとした新産業の創出という方向性を活かしながらも、幅広い産業分野を視野に入れ、「人と産業が集まり成長するまち」をめざして取り組んでいきます。



これまでの新産業創出の実績

大学・研究機関集積の経緯

飯塚市には、理工系大学をはじめとする3つの大学に加え、研究機関等の頭脳拠点が立地し、さらに、産学のコーディネート機能を持つ福岡県飯塚研究開発センターや、高度情報処理技術者を養成する福岡ソフトウェアセンター等の拠点施設が集積しています。

2012(平成24)年4月には、九州工業大学にバイオメディカルインフォマティクス研究開発センターが開設され、アジアにおける教育研究交流及び研究開発の拠点として、また、医工学連携の中心的拠点としての機能を担っていくことが期待されています。



e-ZUKA トライバレー構想 第1ステージ、第2ステージの概要

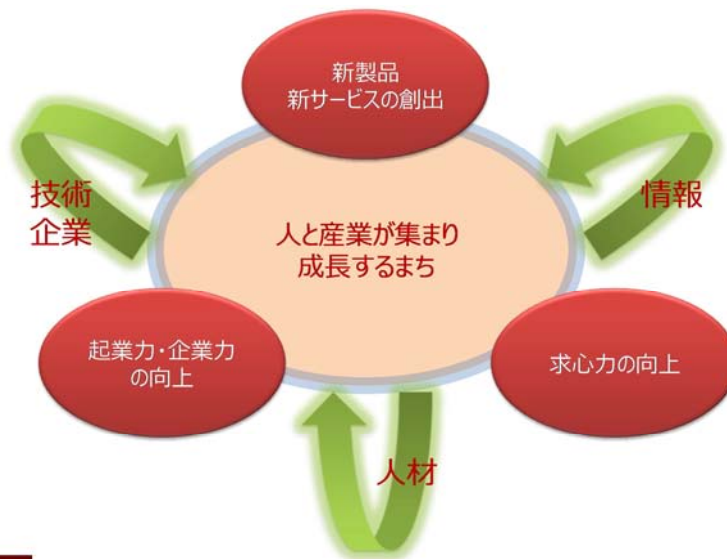
	e-ZUKAトライバレー構想 第1ステージ (2003年度~2007年度)	e-ZUKAトライバレー構想 第2ステージ (2008年度~2012年度)
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ●情報関連産業の集積 (Javaへのフォーカス) ●ITを活用した既存産業の活性化 ●地域のイメージアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本一創業と成長がしやすいまち ●全国から注目され、情報、人材、ビジネスチャンスが集まる刺激的なまち
目標	<ul style="list-style-type: none"> ①ベンチャー企業: 100社 ②従業員数: 800人 ③売上額: 50億円 	<ul style="list-style-type: none"> ①ベンチャー企業の新たな集積: 15社 ②雇用の創出: 1,500人 (誘致企業含む) ③全ベンチャー企業の売上額: 50億円
施策の柱	<ul style="list-style-type: none"> ①産学官連携 ②ベンチャー支援 ③人材育成 ④企業誘致・案件創出 	<ul style="list-style-type: none"> ①人材の育成と集積 ②産学官連携の強化 ③企業の成長に合わせたベンチャー等の支援体制の強化 ④e-ZUKAビジネスモデル構築のための案件創出・企業誘致
	【環境整備】 ●国際化への対応 ●大学とともにあるe-ZUKA	
	市場創出につながる戦略プロジェクト “実証実験フィールドe-ZUKA”	

新産業創出に向けた産業振興の施策体系

施策方針

本ビジョンでは、飯塚市の目指す姿を「人と産業が集まり成長するまち」とし、3つの施策方針を掲げ、まず、飯塚市の強みである大学や産業支援機関、研究施設の集積を活用した「産学官連携」による新技術・新製品・新サービスの向上を図ります。次に、若者の意識の変化を踏まえ、直接的な地域貢献、社会貢献につながるような、課題解決型ビジネスの創出による新たな形態での起業力、企業力の向上を図ります。また、これらの取り組みにより、飯塚市の求心力を高め、これまで以上に人材や情報、技術、企業が集まるまちをめざします。

めざす姿「人と産業が集まり成長するまち」



施策方針

- ❁ 大学や産業支援機関、研究施設の集積を活用し、「産学官連携」による新技術・新製品、新サービスの創出を促進します。
- ❁ 地域の課題解決型ビジネスの創出により、起業力・企業力の向上を図ります。
- ❁ 求心力を高め、人材や情報、技術、企業が集まるまちをめざします。

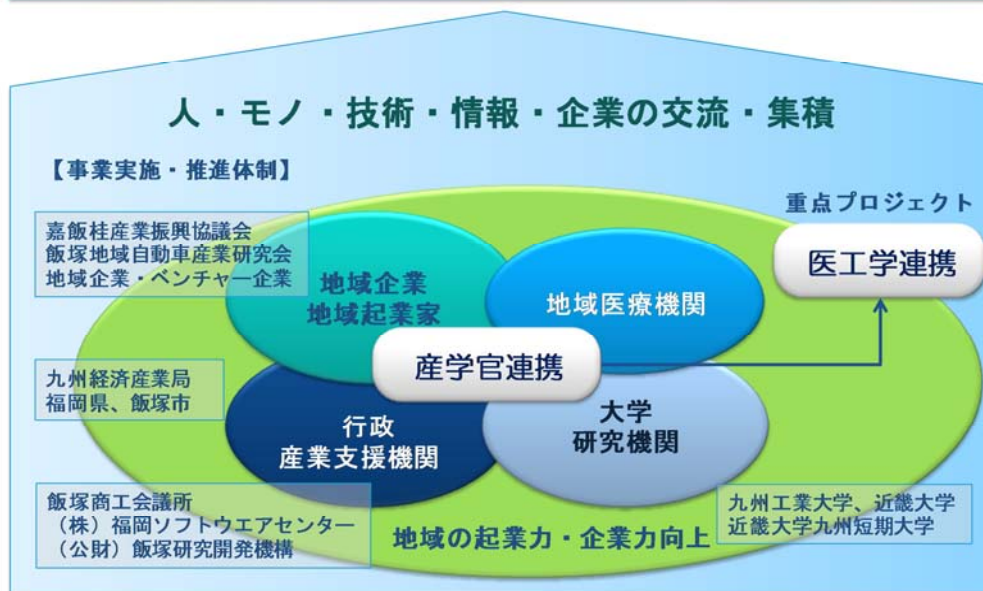
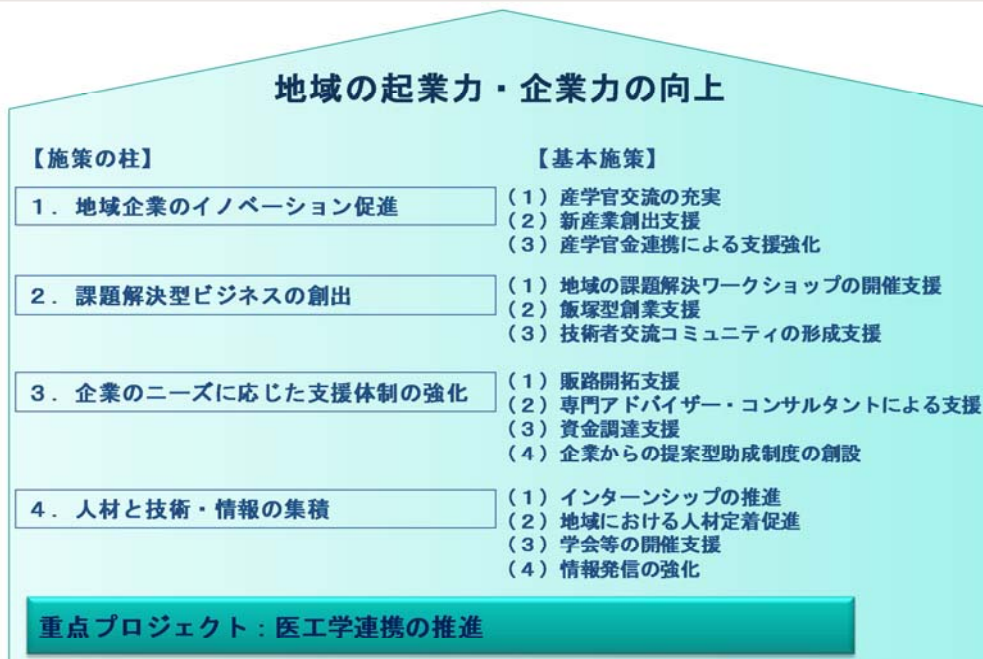
5年間の目標値

- 新規プロジェクト件数.. 15 件
- 新分野への参入企業数.. 30 社
- 交流人口 15,000 人

施策の柱と基本施策

本ビジョンでは目指す姿の実現に向け、「産学官連携」を中心に据えた「1. 地域企業のイノベーション促進」、「2. 課題解決型ビジネスの創出」、「3. 企業のニーズに応じた支援体制の強化」、「4. 人材・技術・情報の集積」を施策の柱とし、重点プロジェクトとして「医工学連携の推進」を設定します。

人と産業が集まり成長するまち



各施策と事業

1. 地域企業のイノベーション促進

(1) 産学官交流の充実

① 産学官及び企業間交流の促進

「産学官交流研究会(ニーズ会)」の継続や、「嘉飯桂産業振興協議会」の活動支援等を通して、産学官及び企業間の交流促進を図ります。

【産学官交流研究会(ニーズ会)】

「産学官交流研究会(ニーズ会)」を継続し、これまでの成果や課題等を踏まえ、参加者の具体的な交流につながる勉強会・交流会を開催します。また、有識者や参加者との積極的な情報交換や交流を通じて「顔の見えるネットワーク形成」を促進します。

【嘉飯桂産業振興協議会支援】

「嘉飯桂産業振興協議会」の活動を支援し、企業間の交流を推進するとともに、企業経営者等の意見を集約し、施策への反映に努めます。

② 自動車関連産業の振興及び参入支援

自動車産業の新規参入・受注拡大につながるよう、「飯塚地域自動車産業研究会」での活動をさらに推進します。

主に、①自動車メーカー工場、会員企業工場等の見学会、②展示商談会及び部品展示会への参加、③研究会及び地場企業のPR活動、④セミナー開催等による情報提供、会員相互の情報交換等の事業を実施します。

(2) 新産業創出支援

① 新技術・新製品開発の支援

現行の施策の成果や課題等を踏まえ、新技術・新製品の研究開発、実用化・高度化に取り組む中小企業を支援し、技術開発力の向上及び製品の高付加価値化を推進し、地域産業の振興を図ります。

② 医療、環境・エネルギー等成長分野への参入支援

今後の成長分野であり、企業の関心の高い医療、環境・エネルギー分野等への企業の事業領域の拡大や新規参入を促進します。

主に、①関連分野をテーマとした産学官交流研究会の開催、②国・県等が実施するセミナーや講習会の情報発信、③専門アドバイザーの紹介、④産業支援機関と連携した案件の発掘等を実施します。

(3) 産学官金連携による支援強化

日本政策金融公庫、近畿大学、九州工業大学、飯塚市による支援体制を活用し、日本政策金融公庫がもつネットワークや金融に関するノウハウを生かすことによって、大学の技術と企業ニーズのマッチングを強化するほか、起業や研究成果の実用化に向けた資金調達等の支援を行います。

2. 課題解決型ビジネスの創出

(1) 地域の課題解決ワークショップの開催支援

地域内での起業風土の醸成や、若者や女性、高齢者等のソーシャルビジネス*への関心を高めると同時に、地域の課題を、地域の人材や技術、ネットワーク等で効果的・効率的に解決することを目的とした、地域の課題解決ワークショップの開催を支援します。

ここで想定するワークショップでは、地域の課題を「地域の技術+ α 」で解決するプロジェクト創出をめざします。また、地域の学生主体で運営するワークショップを設定し、学生のプロジェクトマネジメント能力を育成します。地域に密着した課題を想定することで、プロジェクト成果が浸透しやすく、他地域へのビジネス波及も期待できます。

*ソーシャルビジネス：環境、医療・福祉等地域の様々な社会的課題を、ボランティアだけではなく、工夫を凝らしたビジネスの手法を用いて解決しようとするもの。

(2) 飯塚型操業支援

① インキュベーション施設の提供

これから起業を目指す人、創業間もないベンチャー企業及び研究開発型企業に対して、飯塚市のインキュベーション施設「e-ZUKA トライバレーセンター」を提供、良好な研究開発環境、ビジネス環境を低廉な使用料で提供します。

上記以外の市内のインキュベーション施設を使用する場合は、使用料及び敷金の一部を助成し、スタートアップを支援します。

【市内のインキュベーション施設】

e-ZUKA トライバレーセンター

- ・使用料：㎡あたり1,000円（大学生はその半額）
- ・育成支援室（8室）：約20㎡、研究支援室（11室）：約50㎡

その他のインキュベーション施設

飯塚研究開発センター、福岡ソフトウェアセンター、I. B. Court 等

- ・助成金額：毎月の使用料の2分の1（上限5万円）、敷金の2分の1（上限50万円）
- ・助成期間：2年間

② 人材育成

大学生や創業予定者を対象としたビジネスセミナーの開催や、九州工業大学が設置する需要創発コースへの協力等を通じて、起業や企業経営等の実ビジネスにつながる人材を育成します。

人材育成にあたっては、飯塚市が有するネットワークを駆使しつつ、関係協力機関との連携のもと推進します。

IT技術者の育成については、福岡ソフトウェアセンターを拠点と位置づけ、基礎から実践までのプログラムを提供します。また、市場のニーズに基づくスキルを習得できるようタイムリーに研修プログラムに取り入れ、業界に求められる人材を輩出します。

(3) 技術者交流コミュニティの形成支援

飯塚発の高度技術を持つ人材の輩出に向け、地域の学生、クリエイター、起業家等が集まり、海外からも広く注目されるIT技術者の交流コミュニティづくりを支援します。

ビジネスに通用する優秀な人材を生み出し、成長していく環境づくりを支援することで、飯塚市に集積する技術者等の発信力を高め、都市部や他地域とつながることで、様々な課題が持ち込まれ解決していく循環型のコミュニティをめざします。

3. 企業のニーズに応じた支援体制の強化

(1) 販路開拓

優れた商品を開発し、販路開拓に積極的に取り組む中小企業を支援することにより、新市場への参入及び事業の拡大を推進し、地域企業の振興を図ります。補助金だけでなく、当該補助金の審査員によるアドバイスや販路紹介等のソフト面でのサポートも併せて行います。

(2) 専門アドバイザー・コンサルタントによる支援

新たなビジネスを始める人やベンチャー企業等に対して、トライバレーセンター内に経営コンサルタントを配置するとともに、課題に応じた専門アドバイザーを派遣して、経営課題の解決を支援します。また、経営ステージや経営状況に応じて、的確で実効性の高いビジネス支援を行います。

(3) 資金調達支援

新産業プロジェクト創出のためには、国や地方自治体の各種補助事業以外にも多様な資金調達の仕組みが必要となります。そこで、ウェブサイト上で一般から資金を募るクラウドファンディングを行う機関とのタイアップ等、多様な資金調達手段の導入を検討します。また、「産学官金連携に係る覚書」に基づく日本政策金融公庫や、経済産業省が認定する経営革新等支援機関、商工会議所等との連携を通じ、円滑なプロジェクトの推進を図ります。

(4) 企業からの提案型助成制度の創設

多種多様な形態の起業やプロジェクトの支援、企業のニーズに十分に対応した支援の実施を目的に、企業からの「提案型」助成を創設します。

この提案型助成では、申請者が支援テーマ及び課題に対する目標(達成値)を独自に設定します。企業の経営ステージや経営状態に柔軟に対応した支援が可能となります。

【助成制度の特徴(案)】

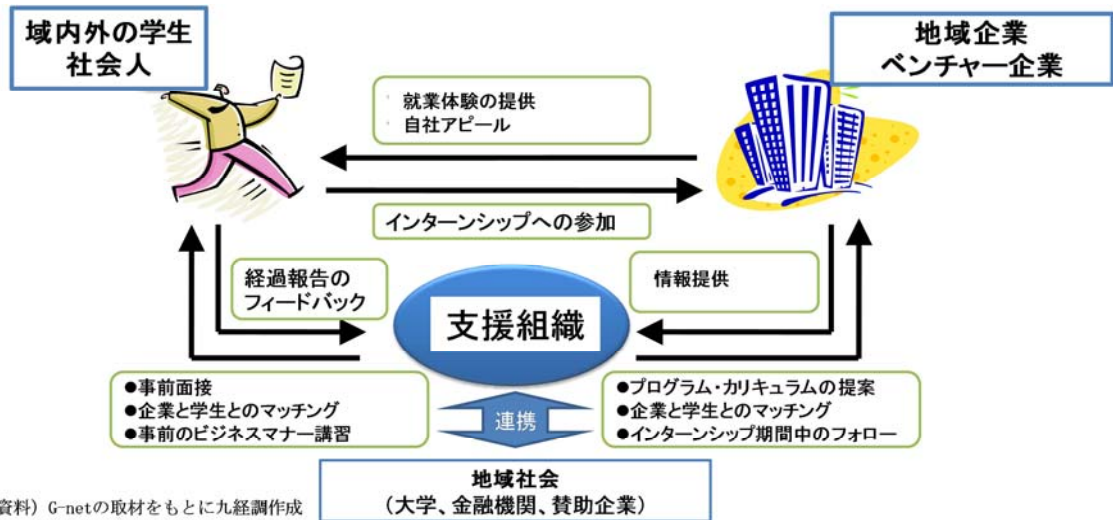
- ① 助成テーマは自由で、応募条件はできる限り緩和します。
- ② 助成期間・申請時期は企業の状況に応じて柔軟に設定します。
- ③ 採択に関しては第三者による審査会を実施し、企業のプレゼンテーション能力の向上を図ります。

4. 人材と技術・情報の集積

(1) インターンシップの推進

「筑豊地域インターンシップ推進協議会」(事務局:(公財)飯塚研究開発機構)が実施する活動内容を拡充し、中小企業の負担を軽減し、多様なインターンシップを実施できるような、ワンストップ支援の仕組みを構築します。学生だけでなく、社会人等幅広い年齢層のインターンシップも受け入れることで、I・U ターンを促します。また、地元企業でのインターンシップを経験することで、地域企業への関心を高めます。

【インターンシップの推進イメージ図】



(2) 地域における人材定着促進

飯塚地域合同会社説明会を開催し、市内の3大学をはじめとする大学生と地域企業が出会い・交流を深め、お互いの良さを再確認する機会を創出することで、優秀な人材の地域定着と地域企業の人材確保を支援し、地域経済の活性化を図ります。

(3) 学会等の開催支援

市内で開催される学会等の開催を支援し、学会を円滑に運営するための応援体制を構築します。また、学会参加者に対しては、市内観光地への誘導・案内を実施し、飯塚市の知名度や回遊性を向上させ、経済的な波及効果を創出します。

(4) 情報発信の強化

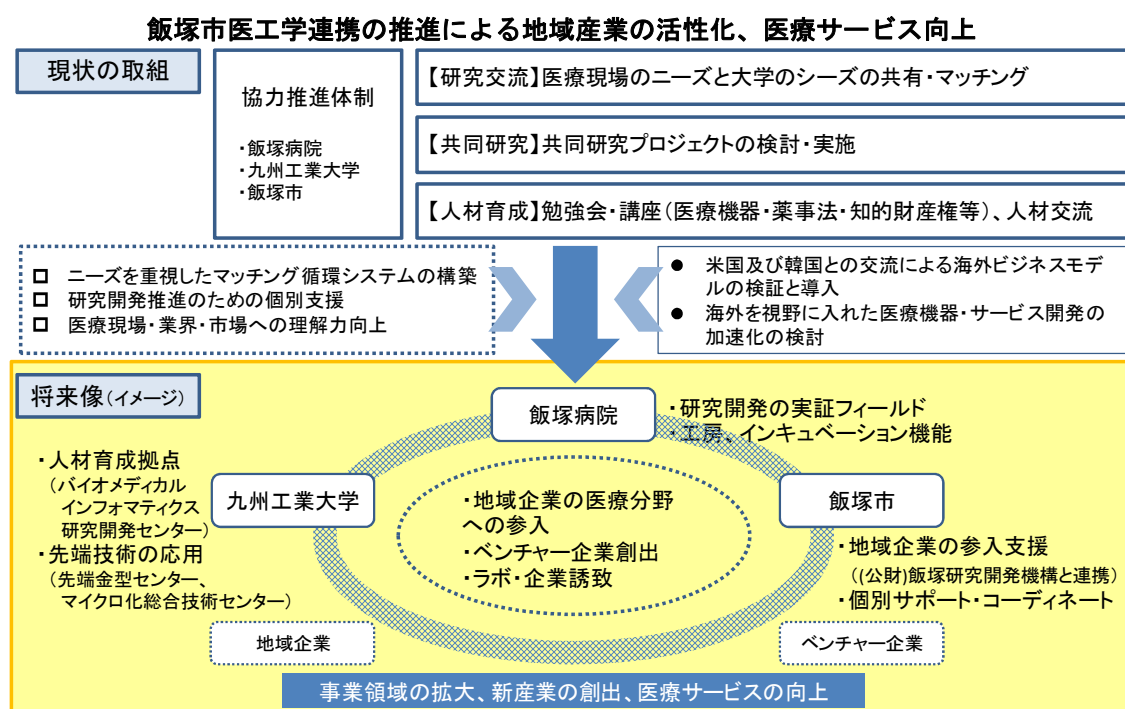
産業振興施策の情報や国県等の競争的資金の公募情報や各種施策情報等、ビジネスに有益な情報を収集・提供するために、ウェブサイトやメールマガジン、紙媒体等を利用した情報発信を行い、市内企業がアクセスしやすい情報提供の環境づくりを行います。

また、市内企業の概要や技術・製品情報を整理し、市内外へ広く発信し、ビジネスマッチングにつなげます。

重点プロジェクト ～医工学連携の推進～

飯塚市は、情報工学の医療への応用をめざした九州工業大学バイオメディカルフィンインフォマティクス研究開発センターや、飯塚市、嘉麻市、嘉穂郡桂川町で構成される飯塚保健医療圏で唯一の地域医療支援病院で救命救急センターを併設した飯塚病院をはじめ、数多くの医療機関が集積しています。

重点プロジェクトでは、このような強みを活かし、成長産業分野の1つである医療に対して、医療機器の研究開発を促進し、地域企業が積極的に参入できるよう、医工学連携を推進します。



(1)医療現場・業界・市場への理解向上

企業の医療現場・業界・市場への理解を向上し、企業の医療分野への参入を促進するため勉強会・フォーラム等を開催します。

①勉強会の開催

医療分野への参入は、薬事法の規制によりハードルが高いと感じる企業が多く存在します。そのため、医療関連ビジネスの業界や技術動向への理解や機器開発を行う際に必要となる法体系への理解を深めるため、勉強会や医療現場の見学会等を行います。

②フォーラムの開催

飯塚市の取り組みを発信するとともに、医工連携による成功事例を紹介し、医療機器ビジネス参入への機運を高めることを目的としたフォーラムを開催します。

(2) 医工学連携プロジェクトの支援

市内の病院等と連携し、実際の医療現場の課題を解決する医工学連携プロジェクトを推進し、医療現場のニーズと技術シーズのマッチング、共同研究プロジェクトが円滑に実施できるよう支援を行います。

① 医療現場のニーズと技術シーズのマッチング循環システムの構築

医療現場が抱える課題の解決、大学・企業が有する技術シーズのマッチング会を定期的に行います。

② 共同研究プロジェクトの支援

医療機関、大学、企業等が共同で実施するプロジェクトに対して、助成金を交付し、医療機器サービス等の開発支援を行います。

③ 医療機器等開発のための個別支援

医療機器開発に伴う知的財産権、医療機器の承認審査等の対応が円滑に進むよう、(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)や知財関係支援機関等と連携した個別サポートを行います。

(3) 関係機関との連携強化、他地域との交流促進

① 関係機関・他地域との連携強化

九州や福岡県内の関係機関や他地域との連携を強化し、事業の広域化・多様化を図ります。福岡県の「福岡バイオバレープロジェクト」や九州経済産業局、(財)九州産業技術センターが設置する「九州医療関連産業推進フォーラム」等との連携を深め、市内企業や大学への情報提供、技術・製品開発を支援します。

② 海外との交流促進

■ 九韓（九州・韓国）医療・介護交流事業（2012～2014年）

(財)日韓産業技術協力財団、(公財)飯塚研究開発機構を実施機関とする韓国との交流事業を通じ、地域医療ネットワーク構築のための情報交流、介護分野における人材交流等行います。

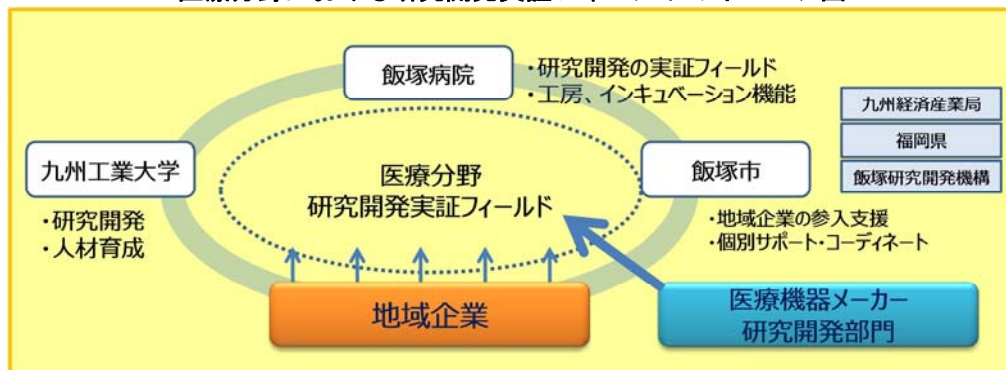
■ 米国との交流

シリコンバレー地域等との交流により、米国型の医療分野における人材育成・研究開発・事業化のモデルを検証し、飯塚市への適用を検討します。

(4) 地域企業の参入支援、医療機器メーカーの誘致

意欲ある地域企業の医療分野への参入支援を行うほか、飯塚市を医療機器開発における実証フィールドとしてプロジェクトメイキングを行うことで、医療機器メーカー等研究開発部門の誘致を図ります。

医療分野における研究開発実証フィールドのイメージ図



飯塚市のポテンシャル

1. 大学の立地

近畿大学産業理工学部

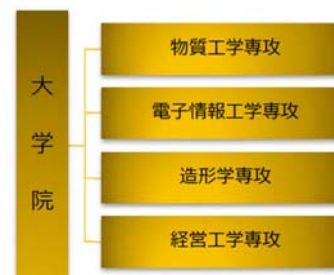
- 設置 1966 年
- 所在地 飯塚市柏の森 11-6
- 学生数 1,755 名
- 教員数 59 名



学部の構成
学生数：1,710名（2012.5.1 現在）



大学院の構成
学生数：45名（2012.5.1 現在）



九州工業大学情報工学部

- 設置 1986 年
- 所在地 飯塚市川津 680-4
- 学生数 2,393 名
- 教員数 139 名



学部の構成
学生数：1,907名（2012.5.1 現在）



大学院の構成
学生数：486名（2012.5.1 現在）



近畿大学九州短期大学

- 設置 1966 年
- 所在地 飯塚市菰田東 1-5-30
- 学生数 192 名
- 教員数 20 名



学部の構成
学生数：192名（2012.5.1 現在）

生活福祉情報科

保育科

2. 研究施設の集積

近畿大学分子工学研究所



近畿大学分子工学研究所は、産学連携による共同研究を基本として2000年4月1日に設立されました。2001年4月にはドイツのヘンケル社との国際産学連携研究拠点である「ヘンケル先端技術リサーチセンター」との開設に始まり、2007年4月にはJSR株式会社との産学連携研究拠点として「JSR機能材料リサーチセンター」が開設され、産学連携研究を展開しています。

九州工業大学マイクロ化総合技術センター



九州工業大学マイクロ化総合技術センターは、半導体LSI開発に必要な全ての設備(LSI設計、LSI製造、材料評価・観測、計測・テスト)を備え、半導体LSI関連技術全体を実地に把握できる教育と独自のデバイスを自由に試作できる優れた研究環境を特徴としています。

九州工業大学先端金型センター



九州工業大学先端金型センターは、金型を作るための技術と各種加工機・成形機等の最新設備を保有し、一貫して金型加工・射出成形を研究しています。さらに、産学官連携による新技術の開発で金型産業界の技術力向上と技術移転に貢献するとともに、金型産業の担い手になる中核人材の育成に努めています。

一般財団法人ファジィシステム研究所



一般財団法人ファジィシステム研究所は、飯塚市を拠点として、ファジィシステム(ソフトコンピューティング技術、微細加工技術および生命体工学)に関する試験研究開発、国際交流、技術者研修、情報収集と提供、技術相談・指導等の事業を行っています。

九州工業大学バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター

九州工業大学バイオメディカルインフォマティクス研究開発センターは、九州工業大学の強みである情報工学技術を、先端的医学研究や医療関連技術開発に応用することを目的に2012年4月に設立されました。大学医学部、病院、企業、行政との連携を推進し、アジアにおける教育研究交流を活発化し、バイオメディカルインフォマティクスの教育研究拠点形成をめざします。

3. 産業支援機関・拠点施設の整備

福岡県立飯塚研究開発センター

福岡県立飯塚研究開発センターは、福岡県リサーチコア整備構想に基づき、県下4か所に設置された研究開発基盤施設(リサーチコア)の1つとして、1992(平成4)年4月に設立されました。同センターは、筑豊地域における新産業・新技術の創造拠点として、産学官連携による中小企業の研究開発支援及び地域における新たな技術の開発や新しい産業の創出をめざしています。



株式会社福岡ソフトウェアセンター

福岡ソフトウェアセンターは、「地域ソフトウェア供給力開発事業推進臨時措置法」に基づき設立された福岡県唯一の高度情報処理技術者を養成する機関であり、国・県・市・民間企業の連携のもとに1992(平成4)年4月に設立されました。同センターは、飯塚市においてもIT技術者の人材育成拠点として位置づけており、人材育成事業、開発・斡旋事業、実践指導事業等を行っています。



e-ZUKA トライバレーセンター

ベンチャー企業や研究開発型企業の集積拠点として飯塚市が整備したインキュベーション施設です。2003(平成15)年4月にオープンしました。

これから起業を目指す人、創業間もないベンチャー企業及び研究開発型企業に対して、良好な研究開発環境を低廉な使用料で提供しています



九州工業大学インキュベーション施設

大学の研究成果を主体的に社会へ還元するための企業活動を支援することを目的設置した施設です。2004(平成16)年4月にオープンしました。



I.B.Court

2002(平成14)年4月にオープンした民間による住居兼インキュベーション施設です。



4. 人材の集積

大学の立地により、飯塚市には理工系を中心として、人口（約13万1千人）の約3.3%にあたる人数の研究者と大学生が集積しています。

飯塚市の大学生・大学院生数、教員数

(人)

大学名	大学生・大学院生数	研究者数		合計
		うち留学生数		
九州工業大学情報工学部	2,393	52	139	2,532
近畿大学産業理工学部	1,755	10	59	1,814
近畿大学九州短期大学	192	0	20	212
合計	4,340	62	218	4,558

注) 2012年5月1日現在
資料) 飯塚市調べ

5. 医療機関の集積

飯塚市には産炭地として栄えた時期に炭坑労働者向けの医療機関が整備されていたこと等を背景に、充実した医療機関が立地しています。医療施設は病院、一般診療所あわせて149施設、病床数は3,087床、人口100人あたりのベッド数は2.35と福岡県の1.93を上回っています。また、医療・福祉従事者数は9,350名、全従業者に占める割合は15.2%と福岡県の12.1%を上回っています。

また、飯塚市、飯塚病院及び九州工業大学では、2011（平成23）年12月に「医工学連携の協力推進に関する協定」を締結し、3者を中心として、医療現場の課題を解決する研究開発の推進、地域企業の医療関連産業への参入促進による産業の活性化に取り組んでいます。こうした医工学連携の事業展開においても、充実した医療機関や医療従事者の存在が大きな魅力の一つとなっています。

飯塚市の医療施設数・病床施設数

	医療施設数			病床数			
	合計	病院	一般診療所	合計	病院	一般診療所	人口100人あたり
飯塚市	149	13	136	3,087	2,951	136	2.35
福岡県	4,944	468	4,476	97,782	87,380	10,402	1.93
全国	108,374	8,739	99,635	1,743,293	1,601,476	141,817	1.36

資料) 厚労省「平成21年医療施設動態調査」



飯塚市経済部産学振興課

〒820-8501 福岡県飯塚市新立岩 5 番 5 号

TEL : 0948-22-5500 (内線 1306) FAX : 0948-22-6062

e-mail:sangaku@city.iizuka.lg.jp